

令和元年第3回 9月 喬木村議会定例会総括

令和元年10月4日 議員全員協議会

■ 9月定例会総括

【議会運営について】

(運営方法に改善すべき点はないか。即決・付託)

【下岡議員】

- ・会期はもう少し短く。決算認定で時間を要すると思ったが、事業の制度設計や改善などの提言は年間を通じて検証していくもので、この時期に意見書や事務事業評価シートを読み込んでも課題の洗い出しは難しいと思う。
- ・上位法の改正や制定などによる条例の改正は即決でもよいのではないかと思う。
- ・本会議における採決は議員の意思と責任を明確にするため、起立採決にすべきと思う。

【木下温司議員】

- ・上位法に基づく議案に関しては、付託審査でなく本会議において質疑・討論・採決でもよいのでは。
- ・専決処分は法の上では問題ないが、できれば処分前に議員全協等での説明があればと思う。
- ・議案審議は委員会を中心に行い、本会議では審議内容の報告と議決を中心に行う。委員会での審議の方がきめ細かな質疑ができる。

【後藤 章人議員】

- ・委員会に、付託議案がない場合、委員会への理事者の出席は必要か？

【下平議員】

- ・総体としては良かったと思う。

【中森議員】

- ・特段なし

【佐藤文彦議員】

- ・即決・付託に関しては議運でその都度検討。内容に依り、ルール決めは難しい。

【福澤眞理子議員】

- ・特に意見なし

【櫻井登議員】

- ・現在、議会改革特別委員会で十二分に検討審議を尽くされているので、特別委員会の結果を踏まえた方向性を鑑みることが大事なことだと思うし、それが改善に当たると考える。仮に今、何かを改善しても、直後に特別委員会からの結論により、再改善となるようなことはいかなるものかと考える。ただし、特別委員会での検討以外の簡略化できる部分の改善は、必要に応じて協議していけばよいと思う。

【東原靖雄議員】

- ・議案一覧表に付託議案が示されているので解りやすい

【小池議員】

- ・議会に出席できず回答ありません。

【昼神議員】

- ・なし

**【本会議（開会）について】
（改善すべき点はないか。）**

【下岡議員】

- ・本会議で議論すべきか、委員会付託のなかで議論すべきかを再度棲み分けする比喻洋画あると思う。

【木下温司議員】

- ・特になし。

【後藤 章人議員】

- ・例えば、村長による議案の説明があり、課長からの説明がありなど、省けるものがあるのではないか？

【下平議員】

- ・議案説明の詳細は、全員協議会に移行しても良いと思う。形式的なことは省いても良いような気がする。

【中森議員】

- ・特段なし

【佐藤文彦議員】

- ・特になし。

【福澤真理子議員】

- ・特に意見なし

【櫻井登議員】

- ・現在、議会改革特別委員会で十二分に検討審議を尽くされているので、特別委員会の結果を踏まえた方向性を鑑みることが大事なことだと思うし、それが改善に当たると考える。仮に今、何かを改善しても、直後に特別委員会からの結論により、再改善となるようなことはいかなものかと考える。ただし、特別委員会での検討以外の簡略化できる部分の改善は、必要に応じて協議していけばよいと思う。

【東原靖雄議員】

- ・村長のあいさつが事前に配布されて読むことが出来、解読しやすいかった今の議案説明良い

【昼神議員】

- ・なし

**【全員協議会・議員全員協議会の審議・運営について】
(決算概要説明など)**

【下岡議員】

- ・簡易な質問と回答について、事前に文書でまとめる方法から、全員協議会での説明と簡易な質疑の方法への変更を検討してみる価値がある。

【木下温司議員】

- ・全員協議会については、行政の各分野の現状・広域連合の動き・北部ブロックの状況などに関して、情報を共有し確認する上で大事な機会ととらえる。
- ・議員全員協議会については、議員活動における各分野の状況確認と日程・運営などについて、全議員が行動できるよう確認する機会。また、課題等の抽出と政策提言、議員発議などに繋がる意見集約の場として重要な位置づけ。
- ・議案についてはできるだけ、議会運営委員会にて検討できるよう、各委員会、担当部署からの提出を頂き検討、議員間の討議と議会の資質の向上を図るため、議員全協をさらに充実させる。
- ・決算の概要説明については、内容にもよるが、予算決算常任委員会での説明で良いのでは。

【後藤 章人議員】

- ・全協の場合は報告の場であると思えば何の問題もないが、議員全協の場合、前もって審議内容が分かる方法はないものでしょうか？

【下平議員】

- ・事前の説明、質疑を全員協議会に行なったことは良かった。

【中森議員】

- ・分かりやすく理解できた。

【佐藤文彦議員】

- ・決算の概要説明は全協で良かったと感じる。

【福澤真理子議員】

- ・特に意見なし

【東原靖雄議員】

- ・理事者への質問をして回答を頂いて、内容によっては要望に展開していくことは良いことではないかと思えます。

【昼神議員】

- ・なし

【一般質問について】

(十分な調査できたか。残念な質問でなかったか。公約との関係は。)

【下岡議員】

- ・聞くことで村民にしらしめる目的の質問は控えるべきと思う。自分の考えを村政に反映させる目的で質問すべきと思う。

【木下温司議員】

- ・私としては、昨年度の第3回定例会の質問に続いて、2回目の質問でしたが広島平和のバス事業に関しては、総合計画の中でも謳われている事業で、今回の見直しについては、早すぎるのではないかと思い質問した、その後、議会報告放送を聞いた住民の皆さんから、継続への意見が寄せられたが、答弁の内容を見守り、今後の事業に繋がるよう期待する。
- ・一般質問は現状、年4回の貴重な機会であるが、今任期に入って11人全員が質問したのは10回のうち2回のみ、少ないときは7・8人と少なく残念、また、時間も15分～20分程度と勿体ない気がする、内容も一部に偏った質問も多く、住民生活の幅広い課題について、注視する力

が必要と考える。

- ・簡易質問もなく、委員会に於いて質問に対して関連質問をされる場合、何回も繰り返すことはどうかと思う。一定のルールが必要

【後藤 章人議員】

- ・相変わらず一般質問についての調査は、充分であったとはいえないが、残念な質問だったとは思いたくない。公約との関係は、問題ないと思っている。

【下平議員】

- ・個人的には、良かったと考えるが、住民感情からすれば今ひとつの結果だったと反省している。

【中森議員】

- ・調査不足のため質問が間にあわなかった。

【佐藤文彦議員】

- ・前回、準備不足の為取りやめたが、引き続きの調査ができ、村長の方針を確認することができた。
- ・今後、議会として出来ることがないかを検討したい。

【福澤眞理子議員】

- ・公約とは直接的には関係しない。複数の場所で意見をお聴きし、質問を決めたが、準備不足は否めない。

【櫻井登議員】

- ・統合保育園建設地に関わる車両通行上の住民の意見を質し、特に下段地域と中原を結ぶ道路での課題について、中原が保育園の予定地になったことを踏まえて、県で事業化していただく方向に要望活動をされることが確認できた。
- ・国交省発表では大津市で発生した園児の交通死亡事故を受けて2020年度に保育所等の子ども関連施設と周辺道路一帯を一つのエリアと位置付けた安全対策について財政支援を行う方針に関しては、同省からの今後の支援の詳細について情報収集を進めることを確認できた。
- ・平和学習については、広島平和のバス運行事業の継続を含め、事業の総括を行い、次年度以降の取組みを検討される考えを確認した。思いは、広島平和のバス運行事業の継続であり、史実を体感し、未来永劫に平和を願うためのその使命感を強く持つこと。この手段を継続することだと認識している。広島平和バス派遣事業の条例化も視野に入れてはどうかと考える。

【東原靖雄議員】

- ・7月中旬より調査が出来た、又執務室を利用しての関係者と協議が出来てさらに内容を把握できた。

【一般質問終了後の議会モニターとの懇談会について】

(開催方法・通知方法・懇談成果等について)

【下岡議員】

- ・今回開催したが、質問した本人を目の前に建設的な意見は言いにくい。少し時間をおいて自分の意見をまとめてからの懇談会にすべきと思う。

【木下温司議員】

- ・一般質問の日、鮮度の濃いうちに意見交換をと言う趣旨であったが、モニターの傍聴者も少なく、この目的での意見は少なかった。また、出席者も少なかったが、報酬・定数に関する意見は懇談会前に聞くことが出来有意義であった。
- ・モニターへの通知が遅かったこともあったのか、出席者が少なかったが、一般質問の日でなくても時間をおいても、意見は聞けるものと思われる。年2回ほどの定例会議で良いのでは。

【後藤 章人議員】

- ・懇談の成果については、今回だけでは何ともいえないが、続けていくことが大切だと思う。

【下平議員】

- ・会期中の懇談会には無理があると思う。

【中森議員】

- ・今後も継続しながら意見をお聞きし参考にしたい。

【佐藤文彦議員】

- ・人数は少なくともグループ討議にできればよかったと感じる。
- ・一般質問に対する意見を聴けず残念だった。

【福澤真理子議員】

- ・懇談会参加が思っていたより少なかった。予定は周知されていたと思う。「毎回出席できるとは限らない。機会が多い方が良い、年2回位の開催」と決めたことで、出る・出られないはモニターさんの都合で仕方のないことかと思う。率直な意見が出されたように思う。

ただ一般質問について、じぶんとしては可能な限り取り組もうと思っ
てはいるが、できない時もある。モニターさんの意見は、意見とし

て受け止めればいいのか、と悩む。

【櫻井登議員】

- ・議会モニターの方々の参加者が少なかったのは、通知方法に何か問題があったのか課題が残った。

【東原靖雄議員】

- ・議会モニターが一般質問の全質問を把握するにもう少し時間を与えた方が良いと思います

【昼神議員】

- ・開催通知が遅かったためか、出席数が少なく残念であった。
- ・本会議の場で一般質問を傍聴しないモニターのためには、懇談会の開催は直近でなく、オフトーク放送後が有効と考える。

【事前質問・事前の意見集約について】

(メール等活用したか。意見集約後に自由討議に繋がったか。)

【下岡議員】

- ・事前の質問や意見集約は参考になるが、出来上がってからの時間が短く、有効活用できていない。

【木下温司議員】

- ・メール等の問い合わせも、内容によっては必要と考えるが、やはり簡易な質問等、事前の意見集約のほうが解りやすい。但し、担当者には仕事量が増え大変な面もある。

【後藤 章人議員】

- ・事前質問については、あまり読まなかった。自由討議に繋がったかは疑問だが、繋げていくべき。

【下平議員】

- ・現行通り進めて良いと思う。

【佐藤文彦議員】

- ・事前質問への返答に対する踏み込んだ質疑が出来れば良いが・・・。
- ・自由討議に繋がるどころまでは行けてないないと思うが、活用の雰囲気は掴めてきた。意見集約は引き続きお願いしたい。

【福澤真理子議員】

- ・メールと事前意見集約と重ねてしまった。簡単、ごく簡単、の見定めが難しい。文書は読む。他の議員の質問は参考になるが、討議まではいかない。

【東原靖雄議員】

- ・簡易な質問に即答されてわかりやすかった

【昼神議員】

- ・事前の質問・意見集約により、会議の場での討論は消極的となる。

【決算審査意見書の活用について】

(事前の活用状況)

【下岡議員】

- ・決算審査の基本は決算審査意見書だと思う。今まではわかりやすい決算書が重要視され、意見書は軽視されてきたと思う。意見書と決算書、事務事業評価シートで事業を精査すべきとおもう。

【木下温司議員】

- ・審査結果等事業執行状況が確認でき、また行政運営に対しての指摘もあり、大変参考になった。

【後藤 章人議員】

- ・質問内容から察するに十分には活用出来ていないのではないか。勉強の機会を。

【下平議員】

- ・良かったと思う。但し、口頭での質問でも良いような事柄や個人的解釈の為の質問は、議員間討議に資するところもあり、もう少し考えた方が良いと思う。

【中森議員】

- ・参考になった。

【佐藤文彦議員】

- ・審査意見書のコメントには注目すべき点が沢山あり、それらの質疑がもう少し出来れば良かったと思う。

【福澤真理子議員】

- ・各項目について詳しく評価されており、参考になった。目は通したが、他に着目すべきことはなかったかと振り返りが必要（自分として）。

文章を読み上げての説明は大変かと感じたが、聞くことで確認できたこともあった。

【後藤澄壽議員】

- ・事前に目を通し、問題点を把握して審査に臨んだ。

【東原靖雄議員】

審査意見書が集約されていて参考になった、また歳入歳出決算概要と合わせて見るのが分かりやすかった

【昼神議員】

- ・監査委員として、コメントは控える。

【事務事業評価シートを活用した予算決算委員会について】

(主要事業説明・抽出事業説明・次年度予算方針を引き出せたかなど。)

【下岡議員】

- ・昨年に比べ、事務事業評価シートの活用方法の理解が進み、審議内容の向上が上がったという意見を聞いた。

【木下温司議員】

- ・事務事業評価シートを活用した予算審議 2 年目、昨年のシートとの比較により、より活発な質疑ができた。総合計画 3 年目の決算で、既に令和元年度、計画 4 年目の事業が進んでいる中、間もなく折り返し点の 5 年目の予算編成に係るわけで、令和 2 年の事業執行に対する意見集約が必要。

【後藤 章人議員】

- ・事務事業評価シートは使用していきたいと思うが、次年度予算方針を引き出せたかという点、そこまでの力量はない。

【下平議員】

- ・昨年より深まり、更に質問項目も内容が濃かったと思う。

【中森議員】

- ・この説明方法での委員会が効率良く継続されたい。

【佐藤文彦議員】

- ・事務事業評価シートの活用は 2 年目となり、単純な金額の増減だけではなく事業の成果、課題などに注目できるようになったと感じる。
- ・次年度の予算方針までは引き出せていないと感じるが、村の方針転換を

確認できる事項もあり、今後注目すべき点となった。

【福澤眞理子議員】

- ・ 昨年に続き二回目となったが、昨年よりなぜか焦点が絞れず不満足に終わってしまった。現状の確認におわってしまい、次年度予算、まで考えての質問にはできなかった。

【櫻井登議員】

- ・ 事業説明は主要な事業を抽出されたもので執行側の重点項目だったと認識した。評価シート活用は、成果や課題、方針などの内容表現によって総合計画との絡みを浮き出し、質すことの要点がより鮮明となった。

【後藤澄壽議員】

- ・ 主要事業説明・抽出事業説明を受け、疑問点を質問し、丁寧な説明をしてもらい納得できた。

【東原靖雄議員】

- ・ 事業評価シートで成果、今後の課題で、今後の方向性などでその事業の内容が短時間で分かることができた

【昼神議員】

- ・ 監査委員として、コメントは控える。

【予算決算常任委員会の審議・運営について】

(補正予算・決算別々審議・款別説明・総括的な質疑など)

【下岡議員】

- ・ 決算認定質疑は款別質疑と全体を俯瞰した総括質疑の時間を設けるべきで、2日間審議ではなく、1日を款別質疑、半日を総括質疑したらどうか。

【木下温司議員】

- ・ 会議の運営状況にもよるが、今回のように補正・決算と分けた審議運営でも良いのでは。このことは3月の予算議会でもできる。

【後藤 章人議員】

- ・ 審議、運営については、良かったと思う。

【下平議員】

- ・ 今回のやり方で良いと思う。

【中森議員】

- ・ 特段なし

【佐藤文彦議員】

- ・ 補正と決算を別にしたことで混乱もなく、時間的にも余裕があった。
- ・ 補正の款毎の審議に問題はなかった。
- ・ その場での思いつきの質問は発展性が無いと感じる。
- ・ 要望も多く、途中で注意をさせてもらったが、あれだけ要望があったにも関わらず、村長要望（提言）が出ないのは何故なのか疑問を感じる。（重要性がない？）
- ・ 主要事業と抽出事業（各委員会毎、更に精査する）に絞り、来年度の決算審査は1日で行えるように提案したい。

【福澤真理子議員】

- ・ 質疑・討論などについては意見なし
- ・ 一問一答を意識していなかったのは反省。

【櫻井登議員】

- ・ 総括的な質疑など、全般に的を得ていたものが多く出されていたと思う。各課長ほか、担当者の即答も質疑に対して詳細な経緯等も交えられて中身のある審議ができたと感じた。
- ・ 委員会構成が変わり初の進行であったが、委員長のスムーズな運びで十分な質疑回答が得られた。質問数はおよそ90問を超えていた。中に関連質問等も多く見受けられ、深掘りがさらに進んでいた。併せて要望等も出されて委員長に指摘される場面もあったが、それは別機会に要望協議としても、関心の度合いが高かったと判断した。良い傾向だと思う。
- ・ 個人的な要望として、会議録作成に関しては、正直、文言が聞き取りにくい部分もあり大変苦勞したことは率直に申し上げたい。その上で、質疑の簡潔なこと、発言口調の明瞭さや速度は、会議録作成の作業の難易に大きく影響します。悪しからず、次回以降には極力、その点、ご協力をお願いしたいと思います。

【後藤澄壽議員】

- ・ 妥当な審議・運営だった。今後も継続してもらいたい。

【束原靖雄議員】

- ・ 補正予算、決算書が事前に配布されたことで内容が把握でき、質問が書き出すことができた

【昼神議員】

特になし

**【総務産業建設常任委員会の審議・運営について】
（上違法改正の審議方法についての考えは）**

【下岡議員】

- ・上位法改正による条例改正は即決で、改正の内容や運営上の課題がある場合は委員会付託で良いと思う。

【木下温司議員】

- ・上位法の審議・採決については委員会付託でなく、初日本会議での対応で良いのでは。
- ・今議会では付託議案があったが、付託の無い定例会の委員会には、理事者の出席は必要ないのでは。議会改革を進める上での検討が必要。

【後藤 章人議員】

- ・良かったと思う。

【下平議員】

- ・上位法の変更に対する議案審議については、委員会付託が必要かは検討の余地ありではないか。但し、上位法についての理解を深める観点からは良策ではあった。

【佐藤文彦議員】

- ・上位法の改正については、基本的には本会議での即決で良いと思う。ただ、その改正により喬木村に影響を及ぼすものとは区別する必要がある。

【福澤真理子議員】

- ・上位法改正による改正であり、反対する余地はないように思うが、もとを理解できていないこともあり、現在の方法でよいと思う。

【櫻井登議員】

- ・上位法改正に従う審議内容が必然の内容でもあった。

【昼神議員】

- ・上位法の改正についての質疑・討論は難しく、形式的となる。

【社会文教常任委員会の審議・運営について】

(請願：自由討議に繋がったか)

【下岡議員】

- ・請願の意見書は喬木村議会として出すものであり、今回のように請願者が欠席された場合は十分な質疑が出来ないことから、継続審査とし、次回での意見書提出という考え方もある。

【木下温司議員】

- ・委員でないので出席していない。

【中森議員】

請願の提出者の委員会出席が望まれるが、その中で十分な質疑・討論が出来る事が望ましい。

【福澤眞理子議員】

- ・今定例会は請願 4 件であった。前に座ったら、緊張して聞きそびれてしまった。ご都合もあると思いますが、説明においでいただけるといいと思いました。

【櫻井登議員】

- ・委員会の審議に傍聴できなかったが、委員会の結果を尊重した。
- ・請願 4 件は重要なことと受け止め当初より支持。

【後藤澄壽議員】

- ・賛成討論はしたが、自由討論までには至らなかった。

【東原靖雄議員】

- ・議案の内容を解説するにとどまった

【本会議（閉会）について】

(委員長報告、討論・採決方法など)

【下岡議員】

- ・討論はきちんと賛成・反対の意見を述べるべきと思う。採決は議員の責任として、簡易採決ではなく、起立採決に変えた方が良く思う。

【木下温司議員】

- ・今議会は決算議会で決算議案 6 件について、一括した委員長報告の方法がとられた、簡素ですっきりしていたと思う。
- ・本会議において、討論がなかったことは、反省点である。

- ・採決は、傍聴者にもわかりやすい、起立採決にしては。要検討

【後藤 章人議員】

- ・9月議会は決算認定の議会であり、決算認定の場合、賛成討論があつてよいのではないでないかなと思った。

【下平議員】

- ・閉会時の本会議のあり方については、もう一度再確認の必要ありだと思ふ。発言すべき内容と発言すべきでない内容の区別がついていないのではないか。討論の仕方については、何が大切か考え、パフォーマンスに終わらないようにしたいものである。

【中森議員】

- ・請願および意見書が長く要点のみを報告した。

【佐藤文彦議員】

- ・予算決算の委員長報告に対する質疑は「町村議会運営に関する基準 94」にある「自己の所属する委員会の委員長報告については質疑をしない」を基準とするならば、必要ないと思ふ。

【福澤眞理子議員】

- ・最終日の議員全協で指摘されていたが、報告中の「討論なく」の言葉はただ聞くと、何も審議されなかったかのような印象があるように感じる。飯島町は理由を挙げて賛成討論をしていると聞いたが、反対がなければ敢えて賛成討論はしないということもあると聞いている。どちらが適切か判断できない。採決は、議員の意思が目に見えるので、挙手という方法もありかと思ふ。

【櫻井登議員】

- ・両常任委員会の審議結果を尊重した。予算決算常任委員会の委員長報告も簡潔であり、会議録配付により情報共有と来期予算方針への資料提供がなされた配慮は良かったと思ふ。特段、反対討論はなく、採決は順当だと思ふ。採決方法は、複数種を承知しているが、加えて、タブレットによる採決を実施している議会もある。(逗子市議会、北名古屋市議会など、ほか)

今後、高森町議会も来年度より本会議にタブレットを活用されるように聞いているが、タブレット議会の採決方法は、すべて電子表示されて即座に議員の表明が映し出されるもので、これらも含めてタブレットの有効活用とタブレット議会の本格化を目指すことも必要と考える。

【後藤澄壽議員】

- ・準備が不足していたので、賛成討論がうまくできなかった。
今後、必要があれば、事前に理事者に補足の質疑を行うなど準備をし、工夫した賛成討論を心がけたい。

【東原靖雄議員】

- ・委員長報告は短いまとめ方で分かりやすかった
採決には内容があると思いますが起立方式が重要性が有ると思います

【小池議員】

- ・賛成の場合でも、理由付けの討論が欲しかった。

【昼神議員】

特になし

【その他】

(全般的な事項、議会モニター、傍聴者への対応、配布資料など)

【下岡議員】

- ・県議会初日の知事によるあいさつではあいさつ文を傍聴者にも配布している。村長あいさつも今回議員には配ったが、情勢報告ぐらいは傍聴者にも配れば興味を持たれるのでは。

【木下温司議員】

- ・議案内容にもよるが、資料はできるだけ配布できればと思う。但し、委員会審議のように、ページ数が多く成るものについては、共同で見えていただくなり、臨機応変な対応を考える

【下平議員】

- ・決算議会とはいえ、だらだら議会にならないよう、個々がポイントを捉えて臨むことと日程を常に考慮していけば良いと思う。

【中森議員】

- ・特段なし

【佐藤文彦議員】

- ・特に阿島区会議員の方の傍聴が多かったが、内容的にどう感じられたか興味がある。
- ・今回、敢えて予算決算の会議録を配布させていただいた。来年の予算審議に向けて活用頂きたい。同時に、他の議員の質問を再確認することで、知識の蓄積に繋げて頂ければと思う。

- ・定例会中、豚コレラ・車検切れの問題も発生した。下平委員長から忠告があった通り、住民を守る観点からも、議員が不確定な情報を口にすることがあってはならない。厳に慎むべき。

【福澤真理子議員】

- ・委員会の審議などのとき、局長が席を立てて傍聴席に赴き説明をされている。対応は丁寧にできる方が良いとは思いますが、全員の方にそこまでやれるか。

【櫻井登議員】

- ・タブレット議会を本格的に考え、タブレットの有効活用を進めていくことを望みます。今後、各自治体の、議会の方向でもありと見ておりますので現状をさらに進化させてはいかがかと思う。

【後藤澄壽議員】

- ・妥当な対応だった

【東原靖雄議員】

- ・議会モニターで毎回出席される方もいて、議会内容が理解されたか、知りたい、いちごチャンネルで議会開催を呼び掛けているが、議会モニターの傍聴者を多く望みます。

【小池議員】

- ・議会モニターに、多く出席いただける体制の検討。
監査報告、数字の提示もあり、分かり易く良かった。

【昼神議員】

- ・議会モニターを含め傍聴者の現状は、議会が求めている成果に程遠い。休日、夜間の開催の意義を再度アピールする必要があるのでは。

**■ 12月定例会に向けた運営上の提案事項
(会期短縮：集中審議など)**

【下岡議員】

- ・9月定例会の総括で提案のあった内容で出来るものがあれば実施したい。

【木下温司議員】

- ・会期短縮は必要であるが、あまり性急な議会運営については疑問。定例会の内容、提出議案等を鑑み、議会運営委員会等で検討し、より良い運営に努める。

【後藤 章人議員】

- ・会期については、議案の数のもよることは言うまでもないが、思い切った短縮議会にしてみてもは？議員の負担のみならず、職員の負担軽減も視野に入れるべきかと思う。今定例会の会期は、終わってみるとやけに長かったように感じる。

【下平議員】

- ・目指すべき会期、審議を試行するチャンスだと考える。運用上、如何に効率よく臨むことが出来るのか試行の時期が来たのではないだろうか。やってみて反省して次につながることをすれば良いと思う。

【中森議員】

- ・特段なし

【佐藤文彦議員】

- ・既に報告がある通り、試験的に会期短縮で行えればと思う。

【福澤真理子議員】

- ・社文、総務産建 常任委員会の日程を同日にするのは良いかと思う。ただ、時間は少しずらすことは必要と思うが。会期の短縮に賛成。議案は少なくとも、議案書受領から審議までの時間は同様にいただきたい。

【櫻井登議員】

- ・極端に変える必要性もなく従前通りでよいと思うが、変えたい、変えるべき箇所がある場合は、必要最小限に留めて議員全協等によって協議すればよいと考える。喬木スタイルの定着があった方がよい。

【後藤澄壽議員】

- ・会期短縮は妥当と思う。

【東原靖雄議員】

- ・年末議会で1日でも短縮され、集中審議にしたい、一般質問を土曜日に行うことは傍聴者が多くなり、定着してもいいのではないかと

【小池議員】

- ・政策提言特別委員会での意見集約、大切。

【昼神議員】

- 緩やかな改革を求める。